

富山県障害者社会参加 推進センターだより

第 35 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター
〒930-0094 富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館(サンシップとやま) 3階
Tel (076) 444-0213 Fax (076) 433-4610
E-mail
fjp25520@nifty.com
ホームページ
https://www.toyamashin.jp/

令和4年度第25回 障害者相談員活動強化研修会開催

今年度は7月13日(水)～14(木)一泊二日で、呉羽ハイツにて開催し初日は相談員100名、2日目は56名参加しました。

講演1

日身連が作成した「障害者相談員のための活動ハンドブック」について、講師としてハンドブックの監修を務められました、竹内正直氏(社会福祉法人 山梨県障害者福祉協会 理事長)から、(1)ハンドブックの目指すものとして①相談員としての姿勢、対等な関係と信頼関係の構築②本人と支援者へのトータルなサポート (2)障害者相談員の懐(ふところ) ～3人の母親の物語～ ①障害者という言葉もない時代に自立のための厳しい躰をした「中村久子の母」
②諦めずに大学進学、就労、お嫁さん探しに奔走した「大谷正美の母」 ③手足の不自由な普通の子として育てた「レーナ・マリアの母」についてのお話がありました。



講演2

「インクルーシブ野外教育」についての講演で、講師として小野誠三氏(小野医療器(株) 代表取締役)からインクルーシブ野外活動の現状と課題について、バリア

フリー環境の整備が困難な自然環境下でも、障害(車椅子利用含む)があっても、運動が苦手であっても海や山も家族や仲間と一緒に、観光地や大自然を楽しむことができるよう、新たな車椅子やデュアルスキー(座ってスキーが出来る)が開発されています。

文部科学省が推進する「インクルーシブ教育システム」は、共生社会を実現するために、

多様な背景をもつ子ども・大人が共に学ぶ仕組みや環境づくりや、これまで必ずしも十分に社会参加できないような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会づくりが求められています。

このような野外活動を行うためには、専門の教育を受けた資格を持ったインクルーシブ野外活動員が必要で現在、富山県では2名また全国でも30名程度であり、まだまだ普及していないとのことでした。

●「インクルーシブ社会」とは？

障害だけでなく、社会を構成するすべての人は、多様な属性やニーズを持つて前提として、性別や人種、民族や国籍、出身地や社会的地位など、その持っている属性によって排除されることなく、誰もが構成員の一員として分け隔てなく、地域であたりまえに存在し、生活することが出来る社会をいう。インクルージョン、(社会的)包摂、包容ともいう。

講演3

富山県における障害者雇用の現状と課題について、川



西真由美氏（富山県労働局 職業安定部職業対策課 地方障害者雇用担当官）より説明がありました。

1. 障害者の雇用の促進等に関する法律
2. 障害者の雇用状況・雇用率制度等について
3. 障害者雇用の課題
4. 障害者雇用対策について
5. 障害者に対する差別禁止及び合理的配慮の提供義務について

障害者陶芸教室開催

今年度、コロナ禍により教室会場の三密を避けるため募集人数を限定して、県西部は7月21日参加者29名、県東部は7月28日19名参加して開催しました。

当日は、初めての方もおられたため講師の丁寧な説明を聞いた後、花瓶や皿などの制作を行いました。今回制作した作品は、各圏域で開催される地域障害者作品展で展示されます。



障害者ほんわかアート教室開催

県西部は8月5日（金）高岡市ふれあい福祉センターにおいて参加者10名、県東部は8月9日（火）サンシップとやまにおいて参加者18名で実施しました。この事業は、昨年計画していたコロナの感染拡大でやむなく中止となり今回初めて実施しました。

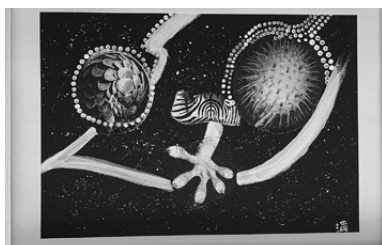
ほんわかアートとは、臨床美術の1つの手法であり上手も下手も関係なく、誰もが楽しみながら作品をつくることのできる、アート（絵）のひとつです。

独自のアートプログラムに沿って創作活動を行うことにより脳が活性化します。認知症の症状改善を目的として始まりましたが、今では子どもや社会人など、様々な方々に実施されています。

臨床美術の流れ、①作品を楽しみながらつくる↓②五感を刺激↓③脳が活性化↓④ココロの開放↓⑤生きる意欲がわいてくる



ほんわかアート制作中

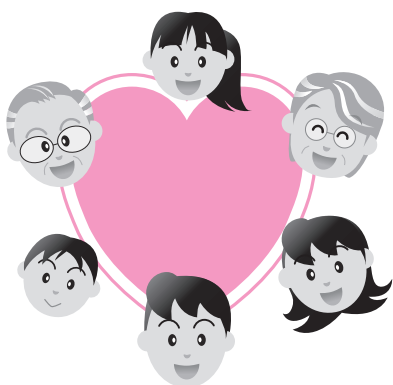


完成作品（作 西野）

●今後の事業計画

（コロナ禍のため、中止や変更がありますので各団体からの事業案内等でご確認ください。）

- 9月3日 結婚相談事業
「出会いと語らいの集い」
（婦中町やまふじぶどう園）
（コロナ感染拡大のため中止）
- 9月13日～15日 地域障害者作品展
高岡圏域（射水市役所）
- 9月30日～10月2日
第28回富山県障害者絵画展（イオンモール高岡）
- 10月8日～10日 地域障害者作品展
新川圏域（黒部メルシー）
- 10月14日～16日 地域障害者作品展
富山圏域（富山市婦中ふれあい館）
- 10月21日～23日 地域障害者作品展
砺波圏域
（井波ショッピングセンターアスモ）



身体障害者のひろば

今年度、富山県身体障害者福祉協会では、コロナ禍の下、外出自粛による会員の体力低下や認知症の発症を予防するため、施設など現地に直接出向いてコロナ感染対策の確認を行い以下の事業を実施しました。

●第32回福祉セミナー

今年度コロナ感染防止を行い4月20日～21日にゆくとりあ越中において会員54名が参加し福祉セミナーを開催しました。

初日は、コロナ禍のため外出自粛や各種行事の中止など自宅生活が余儀なくされ、電話や訪問販売による悪質商法や特殊詐欺が増大しているとのことで、今回富山県消費生活センターの山本公子推進リーダーをお招きし「高齢者の消費者トラブルとその対処法」についてお話がありました。

特に気をつけていただきたいのは、被害に遭われる方の約70%が高齢の女性の方だそうです。

そのような電話や訪問販売の話があれば、その場ではつきりと断ることが一番であるが、断ることができないときは、家族や友人また消費生活センター（直接電話188番）



か警察に相談してから返事をすると言って、その場での契約はしないようとのことでした。また、2日目は、従来福祉施設など見学していましたがコロナ禍のため見学できず、富山市猪谷にある細入関所館を見学し、籠の渡しのパーク体験や地元の歴史に触れてきました。

●令和4年度 山岳歩行訓練会開催

毎年、秋に実施している山岳歩行訓練会を、今年度は5月18日～19日に立山室堂 雪の大谷ウォークとして、会員など39名参加して開催しました。

初日は、「立山カルデラ砂防博物館」の見学を行い、2日目に協会として初めて立山室堂「雪の大谷ウォーク」を実施しました。

実施については、当初県の福祉バスでの開催を予定していましたが、4月末に有料道路入口から美女平間で落石があり通行止めが発生しました。

協会として、中止も検討しましたが「会員から立山はよく行くが、雪の大谷は行ったことがないので是非行ってみたい」との話もあり、急遽立山ケーブルと高



快晴の雪の大谷散策

原バスを利用し実施しました。

実施については、ケーブルカーはバリアフリーになっていないので車椅子利用者の方もおられ心配していましたが、立山ケーブル会社の職員の方の合理的配慮での介助や参加した会員のお力添えを得て、参加者全員無事に散策して来ることができました。

皆さんのご協力に感謝申し上げます。

●第24回フライングディスク競技会開催

6月22日、第24回フライングディスク競技会を富山市の体育文化センターにおいて、コロナ感染防止のため昨年同様午前中のみの団体戦兼個人戦で開催しました。

当日は、障害者フライングディスク協会より3名の主審の協力を得て総勢78名参加し、日頃の練習成果を発揮された方、発揮できなかった方もおられ和気あいあいと楽しい1日を過ごしました。



フライングディスク競技会

●令和4年度 第1回リハビリ教室開催

令和4年度第1回リハビリ教室は、昨年同様九殿浜温泉「ひみのはな」で6月29日（水）～7月1日（金）に二泊三日にかけて温泉療



レストハウス前にて



氷見市潮風ギャラリー

養を兼ね開催しました。二日目の30日には、天候にも恵まれ午前中はあいやまガーデンのバラ園のゆりを見学するとともに、午後からは氷見市出身の藤子不二雄(A)さんの作品を展示した氷見市潮風ギャラリーを見学してきました。

● **障害者交通安全教室**

リハビリ教室最終日の7月1日(金)ひみのはなにおいて、令和4年度の障害者交通安全教室を開催しました。

講師は、富山県警察本部 交通企画課調査班 御福様より 最近の高齢者における交通事故の状況や信号機のない横断歩道の車の一時停止率が富山県では25.1%と全国平均30.8%より相当低い現状となっているとのことでした。

歩行者の方は、横断歩道を渡る時は、ドライバーに手を挙げる・差し出すなどの「ハンドサイン」で歩行者の道路横断時の事故が多発して

います。横断する意思を伝えてください。又、車が止まってから安全に横断してください。ドライバーの方は、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるときは、横断報道の手前です必ず止まってください。とのことでした。



歩行者の道路横断時の事故が多発しています

● **ガラス作品制作体験教室**

7月7日(木)東部、8日(金)西部の会員(総勢40名)によるガラス作品制作体験教室を開催しました。

このガラス作品制作体験教室は、今年で4回目となります。

今年は、昨年同様吹きガラス作品(コップ・一輪差し・小鉢など)を思い思いに、講師の指導を受けながら火傷をしないよう真剣に受講されていました。



ゆっくり・ゆっくり・もっと強く

● **今後の事業予定(8月30日現在)**

● 9月16日

富山県障害者スポーツ大会(FDの部)
(県総合運動公園)

● 9月22日

カローリング競技会
(富山県総合体育センター)

● 10月1日

第49回ボウリング大会

● 10月6日

(アピタ富山東ワンダーボウル)

障害者女性健康指導教室

(テーブルマナー教室)

(ラシヤンス(環水公園))

● 10月20日~21日

中部ブロック身体障害者相談員研修会(コロナ感染拡大のため中止)

● 11月8日~10日

第2回リハビリ教室(ひみのはな)

● 11月日未定

障害者女性健康指導教室(料理教室)

(富山市)

● 12月3日

第35回富山県身体障害者福祉大会

(高岡市)

● 12月27日

障害者女性健康指導教室

(フラワーアレンジメント教室)

(サンシップとやま)

※今後の事業については、コロナ禍の状況により中止や延期となる場合がありますのでご理解賜りますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会

富山市安住町5-21サンシップとやま3階

TEL (076) 432-6331

FAX (076) 433-4610

● 視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

● 図書製作グループと利用者の交流

7月3日(日)、「令和4年度ボランテニアと利用者交流会」が富山県視覚障害者福祉センターにて開催されました。この交流会は点字・録音図書製作やその利用の充実を図ることにより視覚障害者の福祉向上を目指す目的で実施されている事業です。

今回は昨年度よりさらに人数制限を緩和して参加を呼びかけたところ、点訳・音訳ボランティア9グループ19名と利用者14名を含む合計43名の参加者により開催されました。

意見交換は点訳



と音訳各グループに分かれて実施(適宜、両グループがマイク音声でつながるよう配慮)し、質問や意見等の事前調査を基に進められました。

利用者からは、点訳・音訳に関する具体的なお願いや、ボランテニアの負担を少しでも軽減するための提案等が出されたほか、長年に渡り図書製作に携わってくださっていることへの感謝の言葉が相次ぎました。

また、ボランテニアからは、点訳を希望する図書やボランテニアに望むこと、実際の録音図書を聞いての評価、活動や発信の仕方等について次々と質問が出され、活発な質疑応答が行われました。

多くのグループには、利用者・ボランテニアとも高齢化に伴う人数減の実態があり、共通の悩みを巡って、広報の在り方等、ボランテニアグループ間の熱心な意見交換も繰り広げられました。

日頃は交わることの少ない図書製作グループと利用者がこのように一堂に会して交流するのはとても貴重で、視覚障害者の福祉向上にも有意義な機会となりました。

● 令和4年度後期の

主な事業計画をお知らせします。

● 9月10・11日

宿泊研修(視覚障害者と家族激励大会・歩行訓練・研修会)

● 9月25日

第46回視覚障害者文化祭・福祉機器展

● 10月2日

第48回富山県視覚障害者球技大会

グラントソフトボール、

サウンドテーブルテニス

● 10月22・23日 長野県

第31回北信越サウンドテーブルテニス大会

● 11月13日

三療研修会

● 11月26・27日 石川県

日視連北信越ブロック大会

● 12月4日

更生相談会・結婚相談室・意見交換会

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランティア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通して実施しています。

【お問い合わせ先】

〒930-0077

富山市磯部町3丁目8番8号

TEL (076) 425-6761

(福)富山県視覚障害者協会事務局まで

聴覚障害者のひろば

● 劔岳の麓で、第33回富山県ろうあ者大会
開催される！

7月3日(日)午後から、上市町の北アルプス文化センターで開催しました。200名を超える参加があり、会場のロビーには久々の再会や笑顔で手話の語らいに喜ぶ人々たちで溢れていました。

式典では、大会長や実行委員長の挨拶からはじまり、県知事、上市町長ら来賓より挨拶を頂きました。大会長の石倉理事長は「5月19日に障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が成立されたことを喜びたい。また、近い将来に手話言語法が成立されること期待したい。」と述べました。

記念講演は、手話通訳士の資格を持った弁護士藤木和子氏よりテーマを「聞こえない兄弟と育った姉として」

と題して熱演いただきました。聞こえない兄弟との関わりで感じたこと、考えさせられたこと、聞こえない大人や手話言語との出会いから聞こえないきょうだいをもつSODA(ソーダ)の会を立ち上げ



たことなど、いろいろとお話いただきました。講演を聞いた参加者から「藤木さんの行動力や考え方などを聞いて、芯がしっかりしていてすごい人だなあと感じました。」というコメントをいただきました。



● 富岩運河環水公園、県美術館、富山城などにライトアップを行い、手話言語をブルーライトで輝かせよう！

9月23日の「手話言語の国際デー」イベントのお知らせ

世界ろう連盟は、今年の9月23日「手話言語の国際デー」に合わせて、世界の国々でランドマーク、公共施設、庁舎の建物などにブルー(青色)でライトアップするように呼びかけています。このイベントを通して各国の手話言語を支援し、世界のろう者たちとの連帯を世界に、市民に、地域社会に示すことを目的にしています。ブルーは、世界ろう連盟(WFD)が1951年の設立以来使用し続けている色です。

全日本ろうあ連盟は、このイベントを機に「世界そして日本を青色に！ーいのちの輝き手話言語に光をー」市民、地域、社会を一つにチャレンジプロジェクトを行うことになりました。

富山県においては、県の協力を得て、富岩運河環水公園、県美術館、海王丸パークなどの県の公共施設へのライトアップを計画しています。滑川市も計画中です。県内のライトアップの場所は、協会、県及び滑川市のホームページなどに掲載しますのでご覧ください。

● 難聴の方へ。

要約筆記者派遣事業をご利用ください。難聴、中途失聴者の方は、要約筆記者派遣事業が利用できます。身体障害者手帳があれば、無料で派遣できます。問合せ、依頼は本会まで。ぜひご利用下さい。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

富山市木場町2-21

TEL (076) 441-7331

FAX (076) 441-7305

メール info@tonichokyo.or.jp

ホームページ

<http://www.tonichokyo.or.jp/index.html>



知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

◆第48回富山県手をつなぐ育成会大会

令和4年6月26日(日)、富山県育成会大会を入善コスモホールで開催しました。

3年ぶりの大会には、約370名(ご来賓・ご招待者約40名、会員等約280名、本人大会約50名)が参加し、懐かしい顔を見つけては握手をしたり、互いに近況を語り合ったり、久々の再会に喜び合う皆さんの姿が印象的でした。

式典では、新田知事をはじめ、ご来賓の皆様方から心温まる激励のお言葉をいただきました。

大会決議では、「障害のある人もない人も一人ひとりがかけがえない存在」であることを訴え続けると共に、「親から地域へのバトンタッチ」を合い言葉

に、「親なき後」の準備と障害者本人の自立を支援する実践的な活動を通して、障害者に対する地域の理解者を増やし、連携を深めていくことを宣言しました。

また、知的障害



〈県大会・式典の様子〉

当事者が学習会や話し合いで協議した「本人決議」では、地域や施設で暮らす仲間、みんなの思いが込められ、「私たちのことは、私たち抜きで決めないでください。私たちの思いをよく聞いてください。私たちは、たくさんの経験をして、自分で選び、決めたいです」と宣言しました。

【全体研修会】

式典に続いての全体研修会では、ご来賓、ご招待の皆様方にも引き続き多数ご参加いただき、講師の綿祐二さん(日本福祉大学教授・(社福)睦月会理事長)に「地域社会の理想と現実」親なき後も自分らしく暮らせるまちづくり」をテーマにご講演いただきました。

1時間半という短い時間でしたが、親子の共依存、経済的共依存にならないこと、「いつか」という考えは捨てること、年齢を意識して5年後10年後を考えて練引きすることの大切さ、コストバランス(経済的自立)を考えること、障害のある子どもの命の終わらせ方(看取り)を考え決めておくことなど、私たちが今すぐやるべきことを具体的にわかりやすくお話しされました。

綿さん自身が障害者のご家族、福祉現場の支援者、福祉に携わる人材育成をする立場ということもあり、わかりやすい事例を基にした忌憚のないお話には、大きな共感をもって聞き入ると共に、今の暮らしや将来と向き合

い、自分自身ができることを考えようと感じた方が増えたようです。

【本人大会】

知的障害のある人たちによる「本人大会」も3年ぶりの開催となりました。新田知事が式典の後に会場に駆けつけてくださり、コロナ禍にどうやって過ごせばよいか、

仕事の悩み、公共交通機関についてなど、参加者からの率直な質問に、一つひとつ丁寧に応えていただきました。

突然のことに、参加者たちの興奮も冷めやらず、とても楽しく嬉しい思い出となりました。



〈本人大会にも新田知事が登場〉

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

〒930-0094

富山市安住町5番21号

TEL (076) 441-7161

メール toikusei@minos.ocn.ne.jp

ホームページ <http://toyamaikusei.jp/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/toyamaikuseikai/>

精神障害者のひろば

精神に障がいのある当事者と その家族へのピアサポート

世界のどの地域においても凡そ100人に一人の割合で発症するといわれる統合失調症。その原因は未だに良くはわからないとされています。しかも、人生における最も大切な青春時代に発症し、なおかつ、発症の急性期においては幻覚や妄想などといった不可思議な症状に悩まされることになり、本人も家族も疲弊してしまいます。

幻覚(幻聴または幻視)は実際には無いものを有るように感じる知覚の異常で、中でも自分の悪口や噂などが聞こえてくる幻聴が良く知られています。

また、妄想は明らかに非現実的な内容を信じてしまい、周りが訂正を働きかけても受け入れられない考えの事です。

そして、こうした幻覚や妄想は、本人にはまるで現実であるように感じられるので、これが精神障害という病気に起因しているとはなかなか気づくことができません。

このような症状の治療においては、薬物療法だけでは十分でないことが多く、ここで注目されているのがピアサポートといわれる心理的アプローチの併用です。

〔「ピア」は仲間という意味。ピアサポートは仲間同士が支えあうこと〕

(1) 精神に障がいのある当事者へのピアサポート

精神に障害がある当事者への医療や福祉の現場で、回復した当事者が自分の経験を生かして患者の社会復帰を支援したり、相談に乗ったりする「ピアサポート」といわれる取り組みが広がっています。国、自治体も後押ししており、医師や専門職とは違った当事者と対等な立場での活動に期待が寄せられています。

当事者である本人は、同じ病気に苦しむ当事者同士、特に同じ病気を経験して回復した仲間(先輩)との語らいの中で病気の本質に対しての理解を深めることができるだけでなく、自分も回復を目指して頑張ろうという気持ちが強くなり芽生えてきます。

(2) 精神障がい者の家族へのピアサポート

当事者とともに暮らす家族は、当事者本人が幻覚や妄想といった症状を現実にかけていることとして話しかけてきたときに、一体どのように対応したら良いのかに困り、意志疎通が難しいという問題に悩まされてしまっています。当事者本人の症状を何とか修正しようとしても、非現実の話や考えを現実と捉えている当事者とは歯車がかみ合いません。

特に、これが他者に対して危害を加えようとするような話になると、穏やかではありませんが、

自分の子供である当事者とそのような辛い思いで毎日を過ごしている中で、同じ辛い経

験をしてきた仲間(先輩家族)と語り合う機会を得ることにより、このような辛い思いをしているのは自分一人ではなかったと知って孤立感から救われるだけでなく、当事者への望ましい対応の仕方のヒントを学ぶこともできて将来への希望や見通しを得ることができるようです。

今後、ピアサポートの活用が益々大きく広がっていくことを期待したいと思います。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会

事務局 〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL・FAX (076) 461-7110

